

日新産業株式会社

<http://www.nisshin-sangyo.com>

技術部 石田 和宏

k-ishida@nisshin-sangyo.com



1. 日新産業のあゆみ

日新産業は、植生マットを主体とする環境緑化資材の製造・販売を目的として、昭和54年4月に設立されました。

緑化メーカーとしては後発の部類に入るため、設立当初より従来技術とは異なる視点に立った製品開発を進める企業風土にありました。その結果、従来のマット製品とは一線を画する“半開型構造”を有する厚層植生マット（製品名：ガンリョクマット，NETIS：CB-030036-V）をはじめとする様々な製品を開発し、現在に至っています。

2. 自然侵入促進型植生マットを業界に先駆けて製品化

生物多様性時代の到来に向けて、弊社では早くから自然回復緑化に取り組んでまいりました。そして、緑化目標の細分化・ローカル化が進む中では、地域性系統の保全に資する緑化技術の開発が必要と考え、自然侵入促進型植生マット（製品名：イースターマット，建設技術審査証明：第1008号，NETIS：CB-050059-V 設計比較対象技術）を業界に先駆けて開発し、製品化しました（図-1参照）。

現在、イースターマットは北海道から沖縄まで200件以上の施工実績を有し、自然公園や世界自然遺産をはじめとした環境重視地域で広く採用されています。

3. 多様な緑化目標の実現に有効な種子領域指定播種技術

種子領域指定播種技術とは、その名の通り、種子を播く場所の任意指定を可能とした技術です（図-2参照）。

性状の異なる植物、例えば草本類と木本類を混播した場合、初期生育の早い草本類によって木本類が被圧される例が散見されます。同技術を用いて、草本類と木本類を異なる領域に

播種することにより、草本類の被圧を受けることなく、木本類を安定的に生育させることが可能になります。

また、領域指定播種技術は、自然回復緑化を行う場合にも有効です。国内採取、あるいは設定した地域区分内で採取した種子を使用する場合、これらの貴重な種子を有効に活用することが大切です。同技術を用いて、採取した種子と汎用性の高い植物を、あるいは採取種子の中で性状の異なる植物（たとえば遷移系列の先駆種と中後期種）を区別して播種することにより、植物間の競合を避け、各々の植物を有効に生育させることが可能になると考えます。

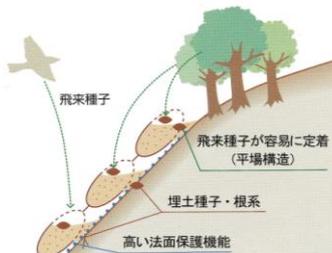
4. 特長ある新技術の開発を目指して

その他の特長ある製品としては、緑化が形成されるまでの侵食防止機能向上に特化した侵食防止強化マット（製品名：ソイルテクター，NETIS：CB-100042-A）、道路の中央分離帯や路側帯、法尻部等を対象に、雑草の発生を抑制しながら地被植物で緑化する除草軽減緑化システム（製品名：BOSOシステム，NETIS：CB-090035-A）等があります。

今後も特長ある新技術の開発を目指して努力して行きたいと考えます。

表-1 会社概要と連絡先

商号	日新産業株式会社
所在地	岐阜県羽島郡岐南町三宅3丁目224番地
代表者	代表取締役社長 伊藤 和人
事業内容	環境緑化資材（自然侵入促進型植生マット，厚層植生マット，侵食防止強化マット，肥料袋付植生マット，植生シート，植生土のう，除草軽減緑化システム等）の製造・販売
連絡先	TEL. 058-247-7529 FAX. 058-247-7359 http://www.nisshin-sangyo.com



法面保護と周辺植物の侵入を両立可能な植生マットである。

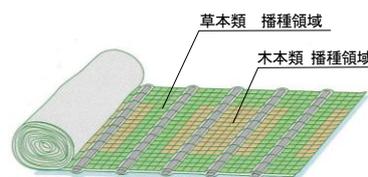
【概念図】



ブナ、ミズナラ、ウリハダカエデ等の多様な植物の侵入が認められた。

【施工事例（十和田八幡平国立公園）】

図-1 自然侵入促進型植生マット（イースターマット）



【概念図】



【施工事例】

領域を指定して播種することにより（概念図）、草本類が格子状に生育し中心部に木本類が発芽する緑化が行われている（施工事例）。植物同士の競合を回避できる同技術は、自然回復緑化を行う場合にも有効と考える。

図-2 種子領域指定播種技術